

業務効率化事例など紹介

釧路地域DX推進協会（中島秀幸会長）が主催する「くしろデジタルEXPO2026」が13日、コーチャンフォー釧路文化ホールで開かれた。企業や自治体の担当者らが来場し、デジタル技術を活用した業務効率化や生産性向上の事例、最新のAI（人工知能）技術に触れた。

会場には大手IT企業 チ・シー・シー、ニッコンをはじめ、地元のサンエー、マルエイ六峰社などス・マネジメント・シス 30の企業・団体が出展。デムスやポータス、エイ オフィス業務を効率化する



来場者（左）に展示した製品を紹介するブース担当者

るソフトウェアやデジタルサイネージなど最新ハードウェア、生成AIに関する展示を行った。各ブースでは担当者が来場者に自社商品の特徴や使い方の説明や質問や相談にも対応した。このうち、エイチ・シー・シーは、エクセルデータを取り込む自社開発の「web請求システム」を紹介。導入企業と取引先双方が業務を省力・簡素化できることや社内だけでなく、出先でも内容を確認できることなどをアピールした。

一方、ニッコンは産業用の「協働ロボット」を展示。対象物を空気の力で吸着させて移送するデモンストレーションを通じて、食品の箱詰めや段ボールをパレットに積み込むなどの活用事例を説明していた。

また、ノーステック財団（札幌）、日本マイクロソフト（東京）、道総合通信局、道経産局がそれぞれ、デジタルトランスフォーメーション（DX）や生成AIなどをテーマに講演を行った。

中島会長は「2年前の前回よりも多くの来場があり手応えを感じている。内容もAIをはじめ、企業のDXにつながるツールが増えているので、地元企業の人々に自社で導入できるものがあると思っ

て見てもらえた」と話していた。（嶋守 善一）